平成　28　年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492500036	事業の開始年月日	平成23年6月2日
		指定年月日	平成27年5月15日
法人名	特定非営利活動法人 き・ら・ら		
事業所名	グループホーム ほっとハウス星ケ谷		
所在地	（〒249-0003　　） 神奈川県逗子市池子2－8－14		
サービス種別 定員等	□　小規模多機能型居宅介護	登録定員　名 通い定員　名 宿泊定員　名	
	■　認知症対応型共同生活介護	定員計　9 名 ユニット数　1 ユニット	
自己評価作成日	平成28年9月20日	評価結果 市町村受理日	平成28年11月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者の持てる力を維持し続けてもらうための方策として、職員の配置を厚くし、入居者と関わり合う時間を多くしている。
・日々の散歩、おでかけ企画などで、入居者が外出する機会をできるだけ増やすことを心がけ、散歩表も作成している。そのためのボランティア、また職員のシフト勤務外のボランティア参加が多い。
・食材に調理済み食材等は使用せず（日曜を除く）、入居者の方々と下処理をしたり、家庭と同じように調理をし、食事を楽しんでいる。
・認知症高齢者への対応に留まらず、地域の福祉ニーズを捉えることに努め、新たな事業の進化に努めている。
・毎月第３金曜日、交流サロンを定期的に開催し（歌の会、書の会、茶会など）、地域とのふれあいの場を設けている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成28年10月5日	評価機関 評価決定日	平成28年11月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇理念の職員間での共有と実践

開設時にスタッフ全員で決めた基本理念「自分と親を入居させたいグループホーム」と、5点の行動指針「持てる力を発揮できるようお手伝い」「これまでの人生や生活を大事に」などを、毎月のスタッフ会議のレジメの冒頭に入れ、確認し合って実践に繋げている。

◇職員意見の積極的な取り入れ

職員から「いろいろ提案表」で提出された、「トイレの手すりを可動式に変更」の意見には直ちに対応し、また、「介護計画徹底の記録書式の見直し」に対しては、検討チームを立ち上げ会議で話し合い、記録様式を更新するなど、年に数件の提案が運営に反映されている。

【事業所が工夫している点】

◇地域との交流の活性化

１階のフリースペースを地域住民交流の場として提供し、毎月「交流サロン」を開催している。更には、自治会や民生委員の協力を得て地域に周知し、書道や歌の会などには多くの住民が参加し、入居者も加わり一緒に楽しんでいる。

◇家族への詳細な情報提供

毎月の家族への便りでは、利用者の生活の様子を手書にて詳細に知らせ、来訪時には「自由にご覧ください」ファイルを用意して、運営推進会議録、事故報告書などを、自由に見てもらっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
Ⅰ 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
Ⅴ アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム星ケ谷
ユニット名	ー

Ⅴ　アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）	○	1，ほぼ全ての利用者の
			2，利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1，毎日ある
			2，数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 （参考項目：36,37）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1，ほぼ全ての利用者が
		○	2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）	○	1，ほぼ全ての家族と
			2，家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1，ほぼ毎日のように
		○	2，数日に1回程度ある
			3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	1，大いに増えている
			2，少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1，ほぼ全ての職員が
			2，職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1，ほぼ全ての利用者が
			2，利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1，ほぼ全ての家族等が
			2，家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ	理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は、開設前のスタッフミーティング時に、スタッフ全員で検討し決めた。開所時、大きな模造紙に書き、食堂に掲げている。月１回のスタッフミーティングの際、レジュメの冒頭に入れている。	・開設時に作成した事業所独自の理念「自分と自分の親を入居させたいグループホームであること」と「入居者の毎日の生活に寄り添います」など5点の行動指針をスタッフミーティングで確認し、利用者が日々笑顔ですごせるように理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	真夏の炎天下を除き、日常的に近所への散歩を行っており、近隣の方々との出会いを大切にし、近くのお寺、陶房を訪れたりして地域との関わりを持っている。月１回の交流サロンを実施したり、様々な催しで地域に交流の場所を提供している。	・１階のフリースペースを利用して、地域住民交流の場として提供し、毎月交流サロンを開催している。更に、自治会や民生委員の協力を得て地域に周知し、書道や歌の会などに多くの参加者があり、入居者も加わり一緒に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望者等の相談が持ち込まれたり、新しいボランティアの方々に認知症を理解してもらえるよう努めている。また交流サロン等での入居者との関わりの中から理解していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、３か月に１回定期的に開催している。ご家族、民生委員、地域包括支援センター職員、地域のNPO団体、市介護保険課職員が出席して下さっており、入居者近況、事故報告並びに要望や防災対応についてなど、さまざまな意見を反映させるよう努めている。	・家族代表、町内会長、民生委員、地域住民、市介護保険課職員、NPO地域団体職員が参加し、3か月ごとに開催している。 ・事業所の活動報告後、意見交換を行い、会議で得た提案・情報を運営に活かすように努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の正式な委員ではないが、ご案内をしているため、概ね毎回オブザーバーとして出席してくれており、協力関係を築くよう努めている。	・運営推進会議に、市の介護保険課の職員が毎回オブザーバーとして出席しており、事業所の取り組みの現状を報告し、協力関係を築いている。 ・管理者が、グループホーム連絡会に参加して、情報の交換と収集を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、日中行っておらず、階下へのドアには、鈴等をつけているのみである。また、事故防止のため、ご家族、ご本人の了解のもと（同意書等）でベッド手すりを使用している入居者がいるため、職員への身体拘束に関する学習会等を行い、正しい理解に努めている。	・支援をするにあたってやむをえない事例を含め、身体拘束をしないケアについて学習会を行って、全職員に周知している。 ・玄関は日中施錠せず、1階に通ずるドアには開け閉めの際に職員が気づくように鈴を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待が行われている事はない、と認識している。防止法等の学習会開催が課題である。雇用時、基本理念を理解してもらえるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者のお２人が成年後見制度を利用しており、今後、学習会を開催し、スタッフの参加を呼び掛けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時は、管理者又は副ホーム長等２人で、必ず説明を行っている。また、ご逝去されたり、退去された入居者ご家族には、退去時の説明を行った。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来所時には、必ず職員が対応し、ご意見等を聞くよう心がけている。又、定期的に開催している運営推進会議に、ご家族の代表に参加していただいている。また、ご家族との懇親会を年２回開催し、入居者皆さんとの食事会やご意見、要望をきく機会を設けている。	・家族の意見・要望は、来訪時や年2回の家族懇親会で食事をしながら聞き、運営に活かしている。懇親会には過半数を超える家族が参加している。 ・家族から、ペースメーカの調整で年2回通院しているが、負担が重いため事業所でできないか依頼があり、医師と相談し、対応した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に気づいたことを業務日誌や「いろいろ提案表」「往診記録」等に記入している。職員から出されたアイデアや工夫を実践している（食事作り、パン作り、敬老のお祝い、誕生会、おでかけ企画など）。毎月最低１回はスタッフミーティングを開催している。毎年アンケート調査や必要に応じて個人面談を実施している。	・管理者は、スタッフ会議や「業務日誌」で職員の意見・要望を把握し、運営への反映に努めている。 ・職員からの提案で、介護計画徹底のため、「記録書式の見直し」を検討するチームを立ち上げ、会議で話し合って新たな記録類を作成した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境にするため、毎月のシフト作成時、職員から就労希望日を提出してもらっている。前記のとおり、アンケートの実施や、個人面談を実施しているほか、必要に応じて、グループホーム管理者、ホーム長、主任との情報交換、意見交換を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム管理者、副ホーム長、主任と積極的に協議するほか、日常的にシフト業務に入り、職員の業務の様子、入居者の様子の把握に努めている。また、昨年度はグループホームで経験を積んだ職員（3人）が資格（介護福祉士）を取得した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	３か月に１回の地域グループホーム連絡会議に参加するよう努めている。また、今年度は、連絡会議の幹事を務めている。職員交流の実施を他施設と調整を行っている。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に、ご家族からのアセスメント（パーソンセンタードケア書式）を行い、十分に把握するように努め、無理なく、施設に馴染んでもらえるように声がけを行っている。また、毎月のミーティングで対応の仕方などの情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の前段階で、施設の内容について、十分に話をした後に契約に至る場合もあり、連絡を密に行うことに努めている。施設内を見学していただき、日常の様子を見ていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	正式契約に至る前の段階で、希望に応じて、お試しでの宿泊を実施する場合もあり、その際、グループホームからデイサービスに通った事例、また、２週間のお試し泊の後正式契約した利用者もいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当グループホームで最も重視している事項である。日々の洗濯干し、居室の掃除、窓拭き、食事作り、後片付けなど、それぞれの入居者の状況に応じて、支援しながら、日常的におこなっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者のちょっとした異変（熱がある、血圧が高い等）に気づいた場合や、事故報告は、ご家族に電話連絡をしている。また、必要に応じて、施設に来ていただき、ご家族といっしょに対応策を考えるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元でのご友人等には、積極的に来てもらえるようにしている。また、日本財団より寄贈された車いす対応車で、ご自宅付近をドライブをすることもある。	・馴染みの人や場所の情報は、アセスメントや家族からの聞き取りで把握し、年賀状や電話の取次ぎなどで、関係の継続を支援している。 ・遠方の親戚や友人などの来訪時には、ソファのある中庭わきのフリースペースで歓談するよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に、入居者の方々は食堂で過ごされている。毎日の食事、お茶、おやつ、体操、レクリエーションなど、特別な場合を除き、全員で行っている。食堂はあまり広くない事が、一方では入居者同士の関わりが深まっている面もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状をお送りしている。また、今年度５月のオープン５周年記念イベントへのご案内をお送りした。退去なさった入居者ご家族が訪問されることもある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的に入居者と職員とが関わっており、入居時のアセスメント（生活歴や思いなど）を参考にしながら、入居者の意向の把握に努めている。	・利用者の日常の行動や表情から、意向や要望を汲み取るように努め、また１対１になれる入浴時などで話を聞いている。 ・利用者の「各自ができること」を話や行動などから把握して、ケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	No.１６で記載したとおり、契約時にさまざまな視点から入居者の好みやこれまでの生活スタイル等を記入してもらうよう努めている。ご家族と話し合う機会を積極的に持つよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個人記録、バイタルチェック表等を作成し、シフト業務へ入る際に確認するように努めている。また、体調やその日の様子などの申し送りを徹底するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は担当者（ケアマネジャー）が、本人の思いを聞くことに努め、ご家族と話し合うことはもちろんのこと、毎月のミーティング等で情報共有したり、介護職員との協議をするなど、多くの意見やアイディアを反映することに努めている。	・利用者、家族の意向・要望を把握し、職員の意見と日常の生活状況を加味して、介護計画を作成している。 ・6か月ごとに医療関係者や家族の意見を参考にし、状況変化があれば速やかに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	No.25で記載したとおり、毎日の個人記録を作成し、職員同士で情報を共有することに努めているが、新しい職員や勤務の少ない職員等へ徹底されていない場合もあり、今後の課題である。また、事故報告とは別に、ヒヤリハット表を作成し、日々気づいたことを記録するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況により、マッサージ、リハビリ等、専門の方のサービスを受けている事例もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容の資格を持つ地域の方に訪問してもらったり、傾聴のボランティア、散歩の付き添い等、地域資源を生かすことに努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望により、入居者全員が、協力医療機関に往診を依頼している。検査等が必要な時は施設の車で通院に付き添っている。ご本人、ご家族の意向に沿って、訪問歯科医療など適切な医療を受けられるよう努めている。	・内科は全員が協力医をかかりつけ医とし、月2回の往診がある。歯科も口腔ケアを含め月に2回往診がある。また、元保健師のボランテァの訪問もあり、適宜アドバイスを得ている。 ・検査や専門医への通院は家族が行うが、状況により職員が対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	雇用関係を結んでいる看護職員がいないため、訪問看護ステーションと週１回訪問をしてもらえる契約を行っている。また、開所以来、ボランティアで保健師が週１回支援をしてくれており、入居者、ご家族への支援はもとより、職員へのアドバイス、相談に応じてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合は、入院時の付き添いを実施し、情報提供に努め、退院時も、今後の対応について管理者等は医療機関に直接出向き、指示を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の協議の他に、個別に重度化したときの対応の仕方について、ご家族と協議を行い決めている。また、対応方法は、ミーティングにおいて共有している。また、ターミナルケアに必要な体制づくりを行い、入居者お一人のご家族と協力医療機関Drを交え協議し、同意書を交わしている。	・入居時に「重度化した場合の対応指針」を本人と家族に説明し、同意を得ている。 ・重度化した場合は家族、医師、看護師、職員が連携し、方針を共有して支援する体制ができており、今までに2名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今後の課題である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練計画を作成し実施したり、備蓄品、非常持ち出し袋等を備えている。また夜間を想定した連絡網を作っている。しかし、他施設等との防災協定等、今後の課題である。	・消防署の協力を得た訓練と自主訓練（夜間想定を含む）を年に2回実施している。11月に自治会長や地域の方が参加する運営推進会議の前に避難訓練を実施する予定である。 ・リストを作成し、3日分以上の乾パン、水、アルファ米を備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの誘導等には、本人の行動を察知し、さりげない介助に努めている。また、認知症高齢者への対応の仕方、言葉がけ等について、研鑽するよう努めている。	・職員は入職時に、利用者の個人情報を漏らさないこと、人格を傷つけることのない言葉かけと対応について研修を受け、やさしく穏やかな口調を心掛けている。 ・各種の記録類には、個人名が特定できないようアルファベットを使用している。	・毎月、職員に「事故対応」などの研修が実施されていますが、更に、個人情報保護に関する研修の開催が望まれます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と職員との関わりを深めるために、職員配置を厚くしており、入居者の意向をきちんと把握し、自己決定できるような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれに個性があるので、一人ひとりのペースに添うことを基本としている。日常的にミーティング等で、入居者の状態に応じた個別対応について意見交換を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの声がけが必要な入居者には、確認しながら、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に好きなもの、食べたいものの会話を楽しんでいる。管理栄養士が月～土の献立を作っているので、要望を伝えたり、日曜の献立に生かしたりしている。準備、片付けは、もちろん、できる範囲で一緒に行うよう努めている。また、食事は職員も同じものをいっしょに取っている。	・毎食のご飯、汁物、副菜の１品を利用者が下ごしらえをしている。職員は一緒に食事を味わいながら、食事が楽しいものになるよう支援をしている。 ・花見会、敬老会などの行事食があり、利用者の誕生日会には、握りずしで祝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成しており、栄養バランスがとれた食事を取っている。服薬の状況を見ながら、水分の必要な入居者に対して声がけを行っている。水分は食事中はもちろん、午前午後のお茶の時間を設け、入浴後や散歩から戻った時など、飲む機会を増やしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、必ず口腔ケアを実施している。できることはしていただき、手を出しすぎない介助を心がけている。訪問歯科診療の専門機関に、往診してもらっている入居者もいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日、24時間の排泄チェック表を作成している。おむつの使用を、できるだけ減らすよう、まずは便意、尿意の際に「トイレへ行く」ということを大切にしている。	・排泄チェック表でパターンを把握し、様子を見ながらのトイレ誘導でリハパンツから布パンツに改善した利用者が3名いる。 ・トイレ誘導は小さな声でさりげなく声かけし、失敗した場合も他の利用者が気づく前に手早く対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄チェック表を作っている。医療機関と連携して、それぞれの入居者の状況に応じて、薬を使用する場合もある。なるべく自然な排便を心がけ、繊維質の多い野菜を中心にした食事を心がけ、芋類、寒天、ヨーグルトなどのおやつを実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現在は月～土の午後の時間帯で行っている。入居者は週３回、「ゆったり入浴」を実施している。しかし、入居者の状況により、シャワー浴を行う場合もある。また、入浴をしない日は、足浴を実施している。	・入浴は週3回を基本とし、リフトの利用により、介護度の高い利用者もゆっくりと入浴ができている。 ・入浴を拒む利用者には、無理はせず日にちや職員を替えて対応しいる。 ・利用者は菖蒲湯やゆず湯で季節を感じ、楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	グループホームの基本であるため、安心して眠れるように、入居者の意向に沿って支援を実施している。眠れない入居者には、少し食堂で話をするなど、自然な眠りにつながるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際は、名前を確認し、個人記録に記入している。服薬は入居者の状況が変化する度に変わっていくので、申し送りを徹底するよう努めている。薬が変わった段階で、業務日誌に詳細、副作用等を記入している。また、服薬一覧表を作り、掲示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グループホームの基本である。健康のための体操、声を出すための歌、嚥下体操などを日常的に行っている。また、買物や外出の機会を増やすよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	前記のとおり、日常的な外出支援に努めている。全員でのお出かけ企画を実施しており、法人所有の車両だけでは不足する場合は、職員の協力、福祉有償運送団体の協力などを得るようにしている。	・週１回、近隣の東昌寺にボランティアと30分ほどの散歩をしている。 ・利用者全員では、年数回「福祉有償運送団体」の協力を得て、横須賀菖蒲園や葉山上ノ山公園などに出掛け、カフェでお茶を楽しんでいる。	・車いす利用者が多くなり、散歩の頻度が少なくなる状況と思われますが、事業所外での外気浴など、利用者が外に出る機会を増やす工夫が望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解の上、入居者個人所有の財布等に現金を入れている場合もある。日々の散歩の際、近所のお寺の賽銭等、職員が見守りながら使用する場合もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症ゆえに起こる帰宅願望を否定せずに、家族の了解の上で、電話をする場合もある。年賀状は積極的に書くよう勧めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「光の庭」に植物の鉢を置いている。ソファーから鉢植えを楽しめる空間がある。温度、湿度、空気の入れ替えなど、職員全体で気を付けるようにしている。	・共有部分には季節の生花を飾り、季節によって壁飾りを変えている。 ・吹き抜けで陽射しの入る中庭が見えるコーナーには、小さなテーブルとソファーが置かれ、家族や友人との面会時にはくつろげる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の椅子には、入居者個人所有の座布団を敷いている。狭いスペースではあるが、食堂とは別に、テーブルとソファを置いた空間を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時にご家族への説明で、使い慣れた家具等を持ってきていただいている。カーテンも入居者の好みの色等を重視し、準備していただいている。	・入居時に家族と利用者で、使い慣れた家具を持込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。使い慣れた布団を使用している利用者もいる。。 ・週2回、清掃専門の職員が居室の清掃をし、清潔で安心して過ごせる支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力を活かす支援がグループホームの基本と考えている。居室の入口に名前を書いたり、「お手洗い」「浴室」等と書いた紙を掲示して、わかりやすく工夫している。施設は、すべて吊り扉で、バリアフリーである。		

目　標　達　成　計　画

事業所名　グループホーム　ほっとハウス星ケ谷

作成日　平成28年11月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　　標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36 (14)	個人記録や排泄チェック表など日常的に使用する記録類について、他の目に触れないような処置が必要である。職員の意識向上を促す研修等が必要である。	個人情報保護に関する研修が行われ、個人記録や排泄チェック表など日常的に使用する記録類が、所定の場所にしまわれ、職員以外の目に触れないような措置が講じられている。	・個人情報保護に関する具体的な研修を行う。　・個人記録、業務日誌等は書棚に入れることを徹底する。　・排泄チェック表は、表紙のあるファイルにする。	記録に関する項目は3か月。研修開催は6か月。
2	49 (18)	病気等の入居者を除き、外気浴や散歩など、屋外に出る機会が少なくなっている。	散歩表を作成し、外へ出る意識付けを行っているが、最低週２回程度の外気浴、散歩を行っている。	・火曜、木曜、金曜はシフト以外の職員体制にもなっていることから、午前中の天候を見ながら、外気浴、散歩を行う。 ・日曜の午後は、これまで同様、散歩を行う。	直ちに
3	35 (13)	夜間を想定した避難訓練が十分ではなく、入居者の安全確保についての訓練が不十分である	夜勤者一人の時間帯に災害が起きた場合を想定した避難訓練が実施されている。	・夜間を想定した避難訓練計画をつくる。　・年間２回の避難訓練のうち、１回は夜間を想定し、実施する	6か月
4	34	急変や事故発生時の職員の対応について、十分な研修ができていない。	応急手当の研修や訓練が定期的に行われている。職員向けの研修計画ができている。	どのような研修を、いつ、どのように行うか、検討し、年間の研修計画を作成する	次年度
5					